

《WE 認証者インタビュー》

WE 認証は「技術的な自信とプライド」

——鉄骨工事の知識を深める一環で取得——

「日本溶接協会の溶接管理技術者（WE）認証は、これまで鉄骨ファブrikレーターを評価するうえで大いに役立った」と話すのは、松井建設株式会社（東京・中央区）の山中浩一氏（61）。「製品検査や工場検査の立会いに際して、WE 認証は発注者や監理者の信頼を得ることに貢献している。我々、建築施工管理技術者にとって、WE 認証は技術的な自信とプライドにもつながる」という。

松井建設株式会社
建設本部技術部技術課長
兼 VE 推進課長

山中 浩一 氏



●1994年1級、99年に特別級を取得

2016年に創業430周年を迎えた同社は、1586年（天正14年）の創業以来、長きにわたる歴史の中で「社寺建築」に携わり培ってきた豊富な経験と匠の技術に加え、将来を見据えた技術の研鑽に努め、神社仏閣はもとより、さまざまな建造物を提供してより良い生活環境の創造と活力ある社会経済の発展に貢献している。

山中氏は1981年、横浜国立大学工学部建築学科を卒業後、株式会社熊谷組に入社。松井建設には2002年入社し、12年には建設本部技術部副部長に就任。16年に定年退職後は、嘱託として建設本部技術部技術課長兼VE推進課長を務める。

「現在は施工方法の改善および指導、技術情報の収集および展開に加え、依頼業務展開、設計（構造）、耐震診断、仮設に関する指導などに携わる。また、VE（バリューエンジニアリング）活動に関する指導・支援・調整のほか、自らVE提案を行う」

WE認証に関しては1994年の1級を皮切りに、99年特別級、2002年に国際溶接学会（IIW）の国際溶接エンジニア（IWE）を相次いで取得した。きっかけは「鉄骨工事の知識を深める一環」だったという。

「熊谷組に在籍していた1993年、横浜支店建築部技術課に配属となった。それまで入社以来十数年、鉄骨工事の経験は数例しかなかったが、当時の所属長から鉄骨工事、溶接工事、冶金

などの知識を身に付けるよう指示を受け、勉強する機会を与えていただいた」

90年代初めは、都内の鉄骨施工不良に関する一般紙の記事を契機に、鉄骨製作の信頼性が注目を集めた。

「当時の所属長に『資格取得は年に一つ』などと個人的な目標を話すと、『資格を取るときはまとめて取るもの』と諭された。別の機会には『最も高い知識が求められる資格を受験するように』との勧めを受け、93年から本格的に勉強を始め、多い年には4～5種類の資格を取得した。溶接についても前向きな気持ちで取り組まなければ知識として身に付かないという考えのもと、ファブの知り合いを通じ、実際に溶接を見せてもらう機会を得て、最終的には溶接技能者資格・アーク溶接の基本級を取得。同様に検査会社の知り合いを訪ね、UTの資格も取得した」

「WE認証は、主にファブを選定する際に活用した。グレード毎にファブを訪ね、各社の実態を資料にまとめた。WE認証取得を通じて得た知識は、ファブの客観的な評価に寄与した。各種検査の立会いでは、WE認証取得者であることがわかると、監理者から信頼されていることがすぐに伝わってきた。ファブ担当者も真摯に対応してくれるので突っ込んだ話もできる。何より、当事者としては、さらに知識を増やそうという意欲が向上した。鉄骨工事に関する知識が徐々に深まってきたと感じていた95年、阪神・淡路大震災の発生を機に、溶接に関する施工管理の重要性をさらに強く意識するようになった」

●新入社員研修で講師役に

その後、外径318mmの鋼管柱の溶接要領および検査要領の検討や、鋼管柱列壁の溶接要領および検査要領の作成などでWE認証が要求された。

「外径318mmの鋼管柱については、検査会社とR部に適用する超音波探触子の合否結果などを協議した。連続地中鋼管杭は仮設でも本設と同等の溶接品質が要求され、現場に常駐して管理を担当した」

松井建設では昨春、技術部に技術教育課を新たに設け、若手社員の教育に一層力を注いでいる。山中氏は新入社員研修で鉄骨に関する講義を担当する。

「過去にも講師を務めたことはあるものの、あまりニーズがなかった。機構改革にともない技術教育課が私にチャンスを与えてくれたので、久々に勉強し直して講義に臨み、建築施工管理技術者にとって溶接に関する知識や品質管理の力量をレベルアップすることの重要性を説明した」

昨秋、再認証審査に合格したWE認証について、山中氏は「あと2回くらいは再認証を続けたい」と話す。

「今後続けていきたいと考えている耐震改修工法の溶接管理や、CM（コンストラクション・マネジメント）におけるゼネコン、ファブの選定などの機会に活用するため、WE認証は大事にしていきたい。また、構造設計、施工に携わる技術者にとって溶接の基本技術は重要であり、今後WE認証取得者が増えていくことを期待する」

(2017年2月2日取材)